

会社概要

鹿児島協同食品株式会社は、1983年に設立、以降、日配惣菜工場、豆腐工場を増設し、2021年には全社的にISO22000（食品安全マネジメントシステム）を取得している。従業員数は207人（R7年4月現在）。直売所（おいどん市場）出店など、消費者に直接商品を届けることにより試食モニター販売を通して生の声を聞き商品開発に生かす取組みも行っている。

削減実績

二酸化炭素排出量削減率 10.1%達成（令和元年度比）

※電力排出係数の変動の影響を考慮し、電力排出係数を基準年度（令和元年度）に固定して実績排出量を算定し、計画期間（令和2年度～令和6年度）の平均排出量を評価した。

実施した対策

全社的な省エネの取組

- 省エネ法に基づき、部署責任者にて構成される省エネ委員会を月一回開催し、省エネ設備の導入に際して費用面及び効果等の検討を行っている。
- コンプレッサーのエア漏れ修理など、設備の定期点検および迅速な修繕を行うことで、設備性能の最適化を図り、エネルギー使用量を削減している。
- 車両更新の際は、可能な限り省エネ性能の良い車種を選定している。また、運転記録により、極端に燃費が悪い車両を把握するようにしている。

独自の省エネ

- 食品加工工場で電気使用量の多い空調、冷凍・冷蔵設備の省エネを図るため、デマンド監視制御装置を導入し、電力の見える化を行い、電気使用量の平滑化を行うとともに不要箇所の空調を切るなど省エネ対策を行っている。（写真①）
- 豆腐工場の見学を行っており、食育の推進に取り組むとともに副産物であるおからを有機栽培の肥料として活用している取組を紹介することで、食品ロス削減の大切さを見学者に伝えている。

その他の省エネ

- 照明をLED照明器具へ更新、人感センサー付きの高効率照明器具も導入している。
- ボイラーの効率的な使用（台数制限）や、廃熱回収を行い、重油使用量を削減している。（R6年度：約1.5%削減）（写真②）
- 食品工場では、空調、冷凍設備のコンプレッサー制御システムを導入し、室温、庫内温度に影響を与えない範囲で効率のよい運転を行うことで、電気使用量を削減している。（R7年度：1.64%削減）。（写真③）

【①デマンド監視装置】



【②ボイラー廃熱回収システム】



【③コンプレッサー制御監視画面】

